

フラッシュ

茨城県の献血状況

平成10年度における献血の状況

平成9年度の献血者数は、半年間に渡る茨城県赤十字血液センターの影響により、82,317人、対前年比71.6%と大幅に減少し、血液自給率は54.2%まで落ち込んだ。

本年4月28日に、茨城県赤十字血液センターの全事業所を対象に、三六協定の締結と4週8休制の導入に関する労使間の合意が整ったことにより、5月1日から移動採血車及び献血ルームの休日稼働・開所が可能となった。

これにより、献血者数と血液自給率も回復しており、4月の献血者数が7,327人であったのに対し、5月の献血者数は9,465人と対前月比129.2%と大幅に増加し、血液自給率についても4月の69.8%から5月は86.6%と大幅に回復している。

しかしながら、県内の献血量では県内で必要とする血液が確保できず、現在においても他県からの応援に頼っている状況である。

献血者数等推移（平成2年～9年度）

年 度	200ml (人)	400ml (人)	成 分 (人)	計 (人)	前 年 比 (%)	供給本数 (本)	前 年 比 (%)
2	114,215	27,278	1,985	143,478	105.3	308,693	108.4
3	112,680	33,825	8,898	115,403	108.3	318,141	103.1
4	91,778	35,498	12,396	139,672	89.9	328,833	102.4
5	71,671	33,958	15,964	121,593	87.1	335,586	103.0
6	61,566	36,433	18,079	116,078	95.5	367,513	109.5
7	54,582	41,895	14,580	111,057	95.7	371,003	100.9
8	52,620	43,932	18,422	114,974	103.5	380,024	102.4
9	33,614	34,575	14,128	82,317	71.6	404,138	106.6

県薬務課資料より

霞ヶ浦北浦のわかさぎ漁

「わかさぎ」は、霞ヶ浦北浦を代表する魚種で、県の淡水の魚にも選定されたシンボル的存在である。以前は帆びき網で、現在では動力漁船を使った「わかさぎ・しらうおひき網（トロール漁業）」により漁獲され、主に佃煮、煮干等に加工され出荷される。

1. わかさぎの漁獲量について

漁獲量は変動があり、最近20年の中では昭和59年の霞ヶ浦北浦合計で1,570トンが最高で、その後は低い水準にある。

2. 漁業の許可について

わかさぎが主に漁獲されるわかさぎ・しらうおひき網漁業（トロール漁業）の許可隻数は霞ヶ浦北浦合計で550隻あり、操業期間は7月21日～12月10日までである。なお、以前に行

われていた帆びき網漁業は現在主に観光向けとなり8隻が許可されている。

3. 資源の保護培養について

わかさぎ資源の保護培養を目的として、保護水面を設定している他、漁業者が主体となって1～2月の産卵期に湖内産親魚による人工採卵・ふ化放流に加え、県外産の発眼卵の移植放流を行い資源の維持増大を行っている。

また、昨年からわかさぎの漁期前の混獲を防ぐため、いさざごろひき網漁業の自主休漁等が行われている等、漁業者をはじめとした資源保護活動においても、わかさぎは中心的な存在となっている。

わかさぎの漁獲量

（単位：t）

年	S 50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
霞ヶ浦	440	283	634	68	178	46	124	135	411	1,290	857
北 浦	129	287	486	290	651	353	87	283	284	280	234
計	569	570	1,120	358	829	399	211	418	695	1,570	1,091
年	61	62	63	H 1	2	3	4	5	6	7	8
霞ヶ浦	872	330	229	305	312	421	328	363	251	169	177
北 浦	344	143	94	152	151	109	72	57	38	68	82
計	1,216	473	323	457	463	530	400	420	289	237	259

県霞ヶ浦北浦水産事務所資料より